

ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇

XXIV

橋 本 侃

第三十六番演目 三人のマリアへのお告げ

〔ココデ、まぐだらノまりあとやこぶノ母まりあとさろめⅡまりあが墓へ来ル。〕

(1)

マグダラのマリア 優しいお姉さまたち、お願いです、
これからわたしがする特別なお話を聞いてください。
薬を持って、

傷を負ったキリストを癒しにゆきましょう――

わたしたちを破滅から救ってくださったのですから。

神は教えてくださるでしょう、

わたしを癒してくれた主を探し求める正しい方法を。

主は血を流されて、束縛からわたしを解き放してください。

(2)

わたしには七つの悪霊が取りついていた。

わたしの愛、わたしの主、わたしの全能の神が

これら七つの悪霊を祓ってくれた。

賢い言葉を遣って、

悪霊の縛めからこのわたしを解き放してくれた。

主のいらっしゃるお部屋をこのわたしの大事な魂の中に用意いたします――

平和の主は信じてくださる。

行って主を埋める宴会の席に臨みましょう。

(3)

ヤコブの母マリア お姉さまたち、わたしにはあの方が直ぐに主だと分かりました。

ここにガラスに当たる太陽のように輝いて横たわっておられた。

御子は雄牛と驢馬のそばでお生まれになった、

動物小屋の中で。

御遺体が草の下に埋められたとしても、

偉大な神性まで埋められることはありませんでした。

主は必ず立ち上がり、ご自分の道をゆかれ、
友のすべてを慰められるでしょう。

(4)

マリア＝サロメ わたしの名はマリア＝サロメです。

主の母とわたしは姉妹です。

わたしたち三人は皆、アンの娘です。

イエスよ、わたしたちはあなたのおばに当たります。

突き通された釘は主の手足を麻痺させ、

刺し通された槍が激痛を与えた。

あの傷という傷に目を向けたい――

神よ、今が今、その慈しみをお与えください！

(5)

マグダラのマリア さあ、今は沈黙を守ったままで行きましょう、

善意をもって。

主はそこに横たわっています。

十字架上で死なれたのです。

主に触ってみたい、

その思いを口にしたらには。

〔ココデ、墓ノ方ヲ向ク。〕

(6)

ここにおられた主はどこに行かれたのでしょうか、
茨で縛られ、わたしのために血を流された主は？

この隅に埋められていたはずなのに――

わたしのために亡くなられた主の御遺体は！

ユダヤ人たちが人をあざむき、いかに悪辣であったかが判りました、
御体を痛めつけた場面では。

この地面に主は横たわっていません――

そうです、御遺体は持ち去られてしまったのです！

(7)

ヤコブのマリア わたしの主、わたしの愛、わたしの友に、

ほんのわずかの癒しでも、してさしあげたい――

その少しでもできるのなら、

深くて広い主の傷をお直したい。

主に忠誠を尽くさねばなりません、

誓ったとおりを果たしたい。

礼をつくして癒したい、

痛みが軽減されるように手と脇腹を。

(8)

サロメ＝マリア 全能の力溢れる神のいらっしやるところへ

塗り薬の箱を携えてきました。

主の打ち傷の痛みを減らしてあげたいと思ったのです、

両の脇腹の辺り一面を。

悪意を持たない愛の子羊よ、

あなたが見つかからない——わたしの心は怒りを覚えます。

墓の中に一枚の布が置かれているので、

優しいイエスは外にいらっしゃるはず！

(9)

天使 三人の女たち、行きなさい、

ガリラヤの街へ。

そこで、あなたたちの救い主を必ず目にするだろう——

主は街を歩いておられる。

一九七 (55)

肉を得たあなたたちの主は、今や命を得た――

殴られ、ぶたれ、十字架の上で死んだ主は。

泣いている女たちよ、出掛けなさい。

そして、言ったとおりに、主を探しなさい。

(10)

さあ、三人一緒に、急いで行きなさい、

主のすばらしい弟子たちの所へ。

ペテロに真実を伝えなさい――

この出来事を恐れてはなりません。

事実を口にすることを惜しんではなりません。

死んで、土に埋められていた主は、

今日この日に、起き上がられた。

真っ赤な血の傷を負いながら、生きておられる。

(11)

マグダラのマリア ああ、わたしの心に嬉しさと喜びがあります、

今やもう、主は墓から立ち上がり、

われらの命を救うために生きておられるからです――

土の中に死んで横たわっておられたのに。

ヤコブのマリア わたしは心からうろたえていました、

左一九七

天使がわたしたちに向かって、

キリストは立ち上がった、と伝えた時——わたしは怖かった、

「ああ、天使だ」とわたしが口にした時には。

(12)

サロメーマリア さあ、わたしたち三人で成就させましょう、

天使の言葉と神の御旨を。

とても甲高い声で言い立てましょう——

「ユダヤ人たちが殺したキリストは、

十字架上に釘付けにされた。

体の血を叩き出されたわれらの主は、

ユダヤ人たちの気が触れてしまおうと、立ち上がられたのだ。」

ああ、主よ、そうであっても、つつがなくありますように！

(13)

マグダラのマリア 「ペテロト他ノ弟子タチニ」兄弟の皆さん、心から喜んでください。

心を浮き立たせ、喜びに溢れさせてください。

95

90

85

本当に良い報せをわたしたちは持ってきたのですから――
われらの主が再び立ち上がられたのです。

天使がこのように命じました――

ペテロ、あなたに告げるように、

殺されたキリストがどのように立ち上がったか、を、

永遠に生きている人として留まるために。

(14)

ヤコブのマリア あの主が再び立ち上がられて、生きています、

ユダがユダヤ人たちに売り渡したあ的主が。

そのことを正しく記憶しています、

天使が告げた言葉によって。

今や、地上の人間には陽気さと喜びが与えられ、

今はもう、誰でも皆、陽気になっていいのです。

とても冷たい土に覆われていた主が

今日、墓から立ち上がったのです！

(15)

ペテロ 姉妹たち、心の浮き立つ言葉で伝えてくれ――

あなたが言うことを信用していいのか？

キリストが再び立ち上がって、生きている――

死んで土の中で冷たくなっていたあのキリストが？

マリア・サロメ わたしたちの言うことを信じてください、本当のことなのですから。

キリストが立ち上がったのは嘘ではありません。

しかも今日、そのように天使がわれらに告げたのです、

大きな声で、はっきりと解かる言葉で。

(16)

ヨハネ 確かに、それは大きな喜びの報せだ、

われらの先生が立ち上がった、というのは。

では、これから急いで走って行って、

主の姿がこの目で見えるかどうか確かめてみよう。

ペトロ 喜ばしい知らせを求めてわたしも一緒に走って行こう、

兄弟のヨハネ、わたしもそのように言ったからには。

急いで直ぐに、

先生の墓まで走って行こう。

〔ココデ、よはねトペテロハ墓マデ一緒ニ走ル。よはねノ方が最初ニ墓ニ着クガ、中ニハ

入ラナイ。」

ヨハネ あれと同じ布がここにあるのが見える、

キリストの体を包んでいたあの布が。

しかし、どこへ行ってしまったのか、主がいなくなっている。

この地面に横たわっていない。

〔ココデ、ペテロが墓ニ入ル。〕

ペテロ その布はこの隅で見つかった。

そして、ここに手ぬぐいが見つかった。

それで主の頭を包んだものだ、

されこうべの丘から運ばれてきた時に。

〔ココデ、よはねが墓ニ入ル。〕

(17)

ヨハネ この手ぬぐいと同じ布だ――

その二つを今こうして目にしている。

今こそ、良く分かって、合点が行った――

主は立ち上がったのだ、再び生きておられる。

兄弟たちの所へ言って伝えよう、

左一九八

天でそうであるのと、まったく同じ真実を。

殺されたわれらの先生が生きている、

全能の主で、喜びの王が！

(18)

ペテロ ここにこれ以上長く留まっていないで、

兄弟たちがいる所へ続く道を取ろう。

われらが真実を伝えたら、

心から喜ぶことだろう。

〔ココデ、ペテロハ一緒ニ集マッテイル弟子タチ皆ニ語ル。〕

兄弟たちよ、キリストのために陽気になってください！

あんなにもすばらしいわたしたちの先生であるあの方が

死から目覚めて生きておられる、

十字架上でひどく引き裂かれた方が！

(19)

ヨハネ 女たちが言ったとおりのことをわれらも見ました――

石が取り除かれていました。

われらの先生は地の下に横たわっています、

墓から出て行ってしまったのです。

トマ「弟子タチノ中カラ出テ」偉大な不思議の数々があります、
あなたたちの語る言葉には。

とても重い石が先生の上に載せられていたのだ。

あの石の下から、一体どのようにして脱け出したのだ？

(20)

ペテロ 事実を見分けることはわれらの知力を超えている――

自分だけの力で立ち上がったのか、

あるいは、墓穴から盗まれたのか、

誰かによって、夜にこっそりと。

われらはこの目ではっきりと主がいなくなっているのを見た――

墓の中にはいなかった。

それがどのような様子であったか、われらには判らないが、

墓の外へ運び出されたのだ。

〔ここで場面が変わる。マグダラのマリアが墓に行き、泣いて言う。〕

第三十七番演目 マグダラのマリアへの現出

(1)

マグダラのマリア 心からの悲しみのせいで、この胸は張り裂ける。

流す涙で顔が洗えそう。

ああ、悲しみで言葉が出ない。

この墓穴にいた主は行ってしまった、

わたしだけの愛しい主で慈しみの王が。

主は七つの悪霊をわたしから追い出してくれた。

ああ、悲しいことに、主を見ることができない――

この墓穴から、主は盗み出された！

(2)

天使 そこに独りで立っている女よ、

なぜ泣いて、嘆いて、そんなにひどく涙を流しているのか？

そのように嘆いているのはどうしてなのか？

そのように悲しんでいるのはなぜか、どうしてか？

マグダラのマリア さらにもっと泣いて悲しむ大きな理由があるのです。

わたしの主がこの墓から取り出されたのです。

盗み出され、わたしから取り上げられてしまったのです。

どこにゆけば御遺体が得られるのか分かりません。

〔ココデ、墓カラ少シ離レル。〕

(3)

ああ、悲しいことに、なにをしたらいいのでしょうか？

主がわたしから取り上げられた。

ああ、悲しみにくれるお前は、どこへ行ったらいいの？

わたしの喜びはこの墓穴から出ていってしまった！

イエス 女よ、なぜそんなに嘆き悲しんでいるのか？

お前の顔色はなぜそんなに暗くて悪い色をしているのか？

ため息をそのように重苦しく吐き、体を震わしているのはなぜか？

そのようにひどく泣き、悲しんでいるのはなぜか？

(4)

マグダラのマリア ああ、わたしより大きな理由を持つ女はいなかった、

夜も昼も泣きの涙でいるわけが、

確かに、わたし以上の女がいて、

いつも、いつまでも泣き悲しむわけがあったでしょうか？

ああ、悲しみのために、この胸から血がほとばしる！

わたしの主が取り上げられてしまったのです。

どうしても涙が流れ、大声で泣かなくてはならないのです。

どこに御遺体が置かれているのか分からないのです。

(5)

でも、優しい庭師さん、お願いです、

主を墓から取り出したのなら、

どこでなら主が見られるかを教えてください。

そうしてくれたら、主の御遺体を取りに行けます。

イエス 「まりあヲ見ナガラ」 マ——リ——ア——

マリア ああ、先生で主であるあなたに飢え渴きを覚えていました！

あなたは主であり、喜びの王でもありますので、

主よ、もしよろしければどうぞ認めてください、

あなたの聖なる両足に口付けができますように。

(6)

イエス マリアよ、まだわたしに触ってはいけません——

父の所にまだ昇っていないのだから。

でも、わたしの兄弟たちの所へ急いで行って、

この良い報せを伝えて皆の心配を解いてあげなさい。

わたしの意図することをわたしの兄弟たちに言いなさい、

「わたしとあなたたちの父の所へ昇って行く」と。

神であり友であるわれらの主の所へ――

天の搭へ昇って行くつもりだ。

(7)

天上に一つの場所をあなたたちに用意しておくために、
これからわたしの父の元へ行く。

陽気さと喜びと大きな慰めと、

終わりのない喜びへ、あなたたちを連れて行くために。

人間のために恥じと苦しみを受けた。

あれ以上の恥辱に満ちた死を受けた人間はいなかった。

しかしそれでも、ご覧、これらすべてのことにかかわらず、

人間のために天上に館を用意するつもりだ。

(8)

マグダラのマリア 慈しみ深い主よ、ご命令に従って、

わたしの兄弟たちすべての所へ言って告げましょう、

あなたが人間として生きておられるご様子を、

生きて、口を利いて、肉と皮膚を持っているご様子を。

今はもう、わたしからすべての重しが払い除けられたので、

陽気さと喜びをこの身へ引き寄せることができます。

今まで、ずうっとよく愛してきたわたしの主を、

わたしは目を大きく開き、この目でしっかりと見たのですから。

(9)

主を墓に探した時には、

はじめさばかりがあって、本当に悲しかった――

主を目にすることができなかったからです。

嘆きに堪えられなくて、ほとんど気が狂いそうになった。

それまでそれ以上の悲しみを持ったことがなかった、

主がいなくなってしまう時はどには。

でも今はとっても心嬉しい――

これほどの喜びを得た女性はいなかった。

(10)

どのようにしたら、これ以上の喜びが持てるのでしょうか、大きく開いた目であの主を見る喜び以上のものを。

主はわたしの魂を罪から救い、

七匹の悪霊から解き放してくれた。

(11)

わたしの喜びを言葉に表せる舌は一つもない。

たった今、主が生きているのを目にしたばかりだ。

兄弟たちの所へ行く用意を整え、

直ぐにも心楽しく伝えよう、

誰にでも分かる言葉で、司祭たちに告解しよう。

易しい言葉遣いで伝えよう――

キリストがどのようにして死から生へ、

終わりのない天上の喜びへ、再び立ち上がったか、そのご様子を。

(12)

兄弟の皆さん、喜んでください！

嬉しい報せをお伝えできます。

われらの主キリストを目にしたので嬉しくなっていました。

肉と骨を持つ、生きている一人の人間として目にしたので。

事実そうなのですから、喜んで、嬉しがってください！

なぜなら、わたしを信じてください、本当にそのとおりなのですから。

この事は確かなのです、口から口へ、

キリスト＝イエスとたった今、話をしたばかりです。

(13)

ペテロ ああ、確かにそれはすばらしい話だ！

われらの主が永遠に崇められますように！

天上の喜びの主であり王であるあなたに向かってわれらは祈ります

一目だけでもあなたのお姿を目にできますように！

あなたの天主に向かって昇って行かれる前に、

慈しみ深い神よ、もしよろしければ、

あなたのお姿を少しでも見させてください、

われらの気がかりな心を落ち着かせるために。〔皆、揃って、「アーメン」を唱える。〕

第三十八番山車演目 クレオパとルカへの現出

二〇二

(1)

クレオパ 兄弟のルカ、お願いだ、

もしよかったら、

少し遠いが、エマオ城まで

わたしと一緒に行ってくれないだろうか。

ルカ 用意ができている、一緒に歩いて行こう、

元気を出して向こうに見える城まで。

直ぐに一緒に行こう、

兄弟のクレオパ、二人して。

(2)

クレオパ ああ、兄弟のルカよ、ひどく気持ちが動揺してしまいます、

われらの先生のキリストのことを心に浮かべる時には。

どのように苦しまれたかを思う時、

心に喜びを見つけることはできない。

あんなにも控え目で、あんなにも善くて、あんなにも情け深く、

生活ぶりは清く、心は優しい方だった。

ああ、悲しいことに、ユダヤ人たちはあんなにも目が見えなかったのだ——
あんなにも善い人を殺してしまうとは！

(3)

ルカ 兄弟のクレオパよ、お前が言っていることは事実だ。

ユダヤ人たちはあまりにも大きな罪を犯した——残虐きわまりない。

そして、嫌悪すべきは、あの裏切り者のユダだ。

金貨・銀貨のために自分の先生を売ったのだ。

ユダヤ人たちは先生を殺す用意を整え、

鞭で打ちのめし、血のすべてを流し出させた。

ああ、悲しいことに、奴らはあまりに獰猛で残酷だった。

先生を十字架の上にみじめったらしい姿のまま吊るした。

(4)

クレオパ そのとおり、二人の泥棒の間に——ああ、なんと恥ずかしいことだ！

体をずたずたに切り裂いて吊るした。

ああ、悲しいことだ、悲しいことだ、ユダヤ人に責任を負わせなくては。

奴らの心積もりは、あまりの大罪を犯し、残虐きわまりないことだ。

喉が渇いて先生が気を失いかけた時、

酔と胆汁を飲ませようと与えた。

悲しいことに、残酷さを發揮して先生を殺してしまった、

おぞましい悪臭の立ち込める、けがれた場所です。

(5)

ルカ そのとおりだ、先生には死罪に当たるとどんな理由も見つからなかった。

悲しいことに、なにをユダヤ人たちは考えていたのか！

先生は足萎えも目暗の両方と、

先生のところへ連れてこられた病氣の人たちの皆を救った。

悪に対しては必ず事を構えられた。

罪ある行為を決してなさろうとしなかった。

それにもかかわらず、奴らは先生を殺さずにはおかなかった。

ああ、悲しいことだ、悲しいことだ、なぜそんなことをしたのだ？

(6)

イエス やれやれ、あなた方にやっと追いついた――

お仲間に加えていただいて、一緒に歩かせてください。

ルカ 神の名において、どうぞ、お入りください。

良いお仲間ができたので否とは言いません。

イエス わたしに向かつては何語をお遣いになるのですか、

お二人だけの間と違って？

あなた方がエマオへ向かっているのなら、お気の毒だ――

もしそうなら、お楽しみはなくなったことになる。

(7)

クレオパ あなたはお金を持たない巡礼者のように思えますが、

この辺をたった一人でお歩きになっている。

ならば、エルサレム市内において

どんなことがあったのか全然ご存じないのでしょ――

巡礼者は時をおかずに出たり入ったりするものですからね。

巡礼さんが一箇所に留まられるのもほんのしばらくの間だ。

エルサレム中を巡り歩いていたのなら、

興味ある事が起こったことに気づかなかったと思います。

イエス さて、どのような事がエルサレムで起こったのですか？

そこからどんな事件を話題として持ち帰ったのですか？

ルカ ええ、ユダヤ人が一人の男をなんの理由もなく殺してしまったのです。

言っておきますがね、その男は罪を犯していなかったのです。

神と共にいる聖なる預言者でした。

言葉においても、行いにおいても、力強かった――

神の偉大な力を持っていた。

人々の間にその男の名前は広がった――

ナザレのイエスと呼ばれていて、

実に有名な人だった。

ユダヤ人たちは残酷な死に目にあわせた、

罪もとがめもないその人を。

奴らは遊びでも楽しむかのように、その人を笑い者にした。

そして、十字架の上に真っ直ぐ釘付けにした。

悲しいかな、悲しいかな、大変な恥さらしだとわたしには思えます、

このような事が理由もなく果たされたとは！

(8)

クレオパ そのとおりです、わたしたちはその方に絶大なる信頼を置いていたのです、

イスラエルの国すべてを救ってくれるはずと。

今日で三日目になります、

その方が冷たい土に被われ、墓に横たわってから。

ところが、この人について不思議な情報があるのです。

朝の光りが差す前に、その方を探し求めた女たちが言ったことなのです。

本当の事なのか、さもなければ、後悔しているせいなのか、

われわれには本当かどうかの判断が付きません。

(9)

墓の中にキリストを見つけられなかったのです。

その時、女たちはわたしたちの所に来て語りました、

天使が三人の女たちにどのように話したのかを。

キリストは、恐れ of 気持ちなど全然なく、確かに生きている、と。

それでも、ペテロとヨハネはこのことを確かめようとして、

二人してキリストの墓へ走りしました。

そして、とても冷たい墓までやって来ると、

女たちの言ったことが本当であることが分かったのです。

(10)

イエス ああ、あなたたちはなんと知恵足らずで、怠け心の持ち主なのだろう、

聖書を信じているというのに！

鋭い言葉で預言者たちが言っていないか、
数々のしるしとしての予表を――

キリストがあなたたちの贖いのために死に、
その後、キリストの天上の喜びに入る、と？
なぜあなたたちの心はかたくななのか？
力溢れる神を信じないのか？

(11)

モーセもアロンも、もっとたくさんの者たちが言ったことを、
あなたたちは聖書で読むことができる。
キリストの死についても語っているし、
墓穴から必ず立ち上がる様子も。

それならばなぜ、信仰から外れてしまうのか、
聖なる預言者たちがあなたたちにあんなに判り易く教えているのに？
回心して、意識を変え、
キリストが生き返ったことを十分に信じなさい。

(12)

ルカ 生き返る、ですって？ あなた、お黙りなさい――

死んだ人間がどのように立ち上がるのでしょうか！

そんなことを口にするのは止めるように忠告します。

あの最高判事のピラトをユダヤ人たちが恐れるあまり、

あの方は大法廷の判決によって殺されたのだ、

たくさんのお偉方の意見に従って。

そんな言い回しはよくよく注意して遣わないといけない、

他の人に混じって話をする時には。

(13)

キリスト 真実はその先生を決してはずかしめなかった。

ならば、なぜ真実を言うのをわたしが止めなくてはならないのか？

預言者ヨナに倣って、わたしはまったく同じことを証明する――

ヨナは鯨の体内に三日三晩いた。

キリストが墓の中に三日三晩いたのと同じように、

ヨナも海の中にいた。

土から造られたキリストの墓は壊された。

今やキリストは立ち上がり、生きている。

(14)

クレオバ あなた、そんなはずはないのだから、そんなことは言わないことだ。

あなたが挙げた例はいくらかはいい――

ヨナはその後ずっと生きていたのだから。

ところが、キリストは十字架上で殺されたのだ。

ユダヤ人たちはキリストに対してひどく怒り狂ったので、

キリストの心臓へ槍を突き刺した。

キリストは心臓の血という血をみんな流したのだ。

力が抜けてしまったのに、どのようにして立ち上がったのだ？

(15)

キリスト アーロンと枯れ枝に咲いた花の話に注意を向けてごらん、

死んでその活力がなくなっている枝に、だ。

それでも、アーロンは幾重にも花を咲かせ、

貴重なアーモンドの実を成らせた。

枯れ枝は予徴だった――

キリストは殺され、恥ずかしい死に様をさらしたが、

ちょうど、アーロンの枯れ枝が本当に清らかな実を付けたのと同じように、

キリストは必ず立ち上がり、再び生きることになったのだ。

(16)

ルカ 死んだ枝に実が成ったことに、

心から驚いています。

それでも、その人本人が死から立ち上がり、

生き返ったことのほうがもっと不思議です。

キリストが生きているということは信じていません、

あのように真っ赤な血を流したのですから。

しかしそれでも、楽しみを永遠に逃してしまった、

キリストが死んだと分かった時には。

(17)

キリスト なぜそのようにかたくなに信じないですか？

キリストは自分独りの力によって立ち上がったのではないか？

塵の下に死んで葬られたラザロは、

請け負ってもいい、ひどい悪臭を放っていた。

そのラザロをキリストは、

これは確かなことだが、墓の中から甦らせた。

それなら、キリスト本人はラザロと同じように、

左二〇四

必ず死から立ち上がり、再び生きることができるのだ。

(18)

クレオパ さてもさても、あなたはいいいことをおっしゃった。

あなたのような方とご一緒できてとても嬉しい。

軽い気持ちから、あなたにお願いします、

今夜はわたしたちと一緒に泊まりになりませんか？

キリスト この地を直ぐに出なくてはなりません。

しなくてはならない大切な仕事がいくつもあるのです。

できるのなら泊まりたいのですが、

この時刻ですから、行かなくてはなりません。

(19)

ルカ 今夜はわたしたちから離れてはなりません。

陽が暮れて、すっかり暗くなりました。

陽は落ちて、光がなくなつた。

わたしたちの元から離れてはいけません。

キリスト 申し上げているとおり、泊まることはできません。

今夜は友達の所へ行かなくてはなりません。

それゆえ、善い兄弟たち、お願いです、
わたしが行くのを止めないでください。

(20)

クレオパ 本当に、わたしたちから離れてはなりません。

このまま引き続き、わたしたちとここに留まりましょう、
ほんのちょっと一緒にいただけたら嬉しいのです。

わたしたちが飽きるまでお引き留めるつもりは決してありません。
心から望んで、あなたにお願いします――

一晩中、わたしたちと一緒にいてください。

前よりももっといいことをわたしたちに話してください、
もっと多くのいいおしゃべりをどうぞしてください。

(21)

ルカ そのとおりだと、兄弟のクレオ、わたしに賛成してくれ――

力ずくでもお引き留めしよう。

それがよかれと思って、手を添えて、

わたしたちと一緒にここに留まるように、この人を引っ張ってくれ！

巡礼さん、陽も落ちて、もう夜だ。

わたしたちから離れずここにお泊まりになったらいかがでしょう——
わたしがこうして頼んでいるのですから、留まってもらいますよ。

今夜は、わたしたちの元から立ち去ることなどさせません！

(22)

クレオパ　今夜は、わたしたちから離れてはなりません。

わたしたち二人の間にはさんで、あなたを放しません。

それゆえ、「行かない」と、

「真っ直ぐに続く道を一緒に歩いて行く」と言ってください。

キリスト　力ずくで押し留めようとなさるのだから、

心積もりをして一緒にいることにしましょう。

ルカ　留まってくれることになって、とても嬉しい。

この広い世界で、あなたほど歓迎される人はいません！

(23)

クレオパ　われらの先生のキリストイエスについて、

あなたがあんなに良く言うものだから、

あなたが心から大好きになった——本当だから信じてください、

先生は優しく、温厚な気質を持った人だった。

先生について語るのは、わたしにとっては日用の糧だ。

あえて言いますが、もしもあなたが先生を知っていて、

どんな状況に置かれたかも判っていたら、

何日もの間、先生のことが気になって仕方なかったはずですよ。

(24)

ルカ そのとおり、何日も何日もの間です、そのとおりです。

あの方は聖なる生き方をされた。

無上の喜びである神の御子であったとしても、

あの方のなされた業績は分別があり、不思議なものだった。

ところで、つらい仕事とたっぷり歩いた後には、

このパンを手に取り、その少しを食べてから、

もっと話し合いましょう、

今は死んでしまったわれらの先生、キリストのことについて。

(25)

キリスト 何ものにも捉われずに心楽しく、陽気になって、喜びなさい！

なぜなら、あなたたちの友であったキリストイエスについては

楽しいお祭騒ぎのような報せを受けることになるでしょう、

この地から離れるほんの少し前に、

わたしの手でこのパンを祝福し、

あなたたちが見ている前で、パンを裂きます。

このパンの一部をあなたたちへ与えよう、

このパンを食べて、心が浮き立つように。

〔ココデ、きりすとハ二人ノ目ノ前カラ姿ヲ消ス。〕

(26)

クレオパ ああ、憐れみ深い神よ、なんとわたしたちは運に恵まれなかったことでしょ

う？

心は愛で燃えていなかったのか――

二〇六

先生のキリストがあんなにわれらの膝近くにおられ、

座って、あんなにもすばらしい話をされたというのに！

220

先生は生き返って、動く人になられた。

先ず最初に殺され、墓に入れられたというのに！

今や死者への悼みと悲しみすべてを変えることができる――

主は従者たちを救うために立ち上がられたからだ。

(27)

215

ルカ ああ、悲しい——われらは付いていなかった！

一緒に歩かれた時、

聖書によって明かしをされた——

キリストは土の下から立ち上がった、と。

その言葉を信じられずに、そんなことはない、とわれらは言うばかりだった。

ああ、恥ずかしい——なぜそんなことを言ってしまったのだ？

今日こそ、キリストは立ち上がられて生きておられる。

主は墓から出て、どこかへ行ってしまわれた。

(28)

クレオパ これ以上、ここに留まるのを止めて、

兄弟たちの所へ行こう。

本当の話を伝えよう、

われらの先生で友であるキリストが生きている、と。

ルカ わたしは慎しみ深く心からその考えに賛成している。

われらの道を歩いて行きましょう。

気持も心も喜びに溢れています——

最初は死んで横たわっていた主が生きているのですから。

(29)

クレオパ さても、事はうまくはいかなかったな――

愛しい先生であるキリストⅡイエスが

あんなに長い道のりを一緒に歩いてくれ、

立ち上がったことを教えてくれたというのに！

われらと一緒に歩いていた時に、

先生は死んで冷たくなっているとばかり思っていた。

棺架の下から立ち上がられたという真実を

聖書に基づいて話をされたというのに！

(30)

ルカ これは確かに起こった好ましい出来事だ。

さらに先生はどんなことをわたしたちにしてくれたのだろう、

旅を続けるわれらを元氣付ける以上のことを？

そして、われらは先生が死んだことをひじょうに嘆いた。

先生を愛するあまり、われらに喜びはなくなった。

先生のことを思つて、心は重かった。

しかし今は、先生がわれらの喜びを取り戻された――

左二〇六(245)

無傷のままで立ち上がったからだ。

(31)

クレオパ 先生がこのように立ち上がったことがとても不思議だ。

体の上には重い石が置かれていた。

どのようにその石をこなごなにくだかれたのか、

死んで土の中で冷たくなっていたのに。

これには誰もが驚き、

大きな力を持つ主を恐れるかもしれない。

しかしそれでも、この不思議なことは誰も否定しない――

大きく開けた目で主をしかと見たのだから。

(32)

ルカ 主が生きていることが良く分かった。

主は血肉を持って立ち上がった。

確かに、生きた人になったのです、

十字架の上ではじめにも、ずたずたに引き裂かれた方が。

元気を出してください、愛しい兄弟の皆さん、気を変えてください――

キリストは生きていて、元気になっているからです。

わたしたちはあんなにも優しいキリストと一緒に歩いて、

たぐさんの言葉を交わしたのです！

「ここで、「クレオパとルカへの現出」が終わり、「トマへの現出」に続く。」